

第2回 UHC ジョイント・ラーニング・セミナー

UHC 政策の現状と課題～高齢化社会を迎えるアジアで～

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC : Universal Health Coverage) は、持続可能な開発目標 (SDGs) にも掲げられた概念で「全ての人々が適切な予防、治療、リハビリ等の保健医療サービスを、必要時に支払い可能な費用で受けられる状態」です。しかしその実現や維持には、財源、長期の制度設計、住民の課題 (医療機関へのアクセス、家族の理解、時間の確保) など多岐にわたる課題があります。財源や医療・介護人材不足が深刻になる日本でも「アジア健康構想」を打ち出し、高齢化社会に対応した UHC と健康長寿社会の実現を目指しています。その柱は、アジア地域全体の保健人材の育成と登用です。今回は、国際保健や日本の UHC 政策に詳しい 2 人に、国内外の UHC 政策の現状と課題をお話いただきます。

日 時 : 2017 年 10 月 3 日 (火) 15 : 00 ~ 17 : 00
主 催 : 公益財団法人ジョイセフ
場 所 : ジョイセフ 10 階セミナールーム <https://www.joicfp.or.jp/jpn/access/>
JR 総武線 市ヶ谷駅より徒歩 5 分
東京メトロ (有楽町線・南北線) 6 番出口より徒歩 2 分
都営新宿線 1 番出口より徒歩 5 分
定 員 : 30 人 (先着順) ※参加費は無料です
申 込 : グーグルフォームよりお願いします <https://goo.gl/forms/KZ7gbR7HdmDe2xQ83>
問 合 : ジョイセフ アドボカシーグループ (福田)
Email: advocacy@joicfp.or.jp 電話 : 03(3268)3172



高橋 謙造 (たかはし けんぞう) 帝京大学大学院公衆衛生学研究所 准教授

東京大医学部医学科卒。小児科医、国際保健学修士、医学博士。専門は母子保健、地域保健、予防接種政策。1990 年代前半の医学生時代に、タイ・マヒドン (Mahidol) 大学のプライマリー・ヘルス・ケアの研修に参加し、国際保健の道に目覚め、恩師達のアドバイスもあり、小児科医を志す。大学病院での研修後、鹿児島県奄美の離島病院徳之島徳州会で 2 年半診療に従事。「生活まで知らないと、患者さんの病気には関われない。」という学びを得て、地域保健への志向を強くする。その後数年を経て、順天堂大学公衆衛生学教室での助手時代に、ラオス、マダガスカルでの JICA 短期専門家を経験。厚労省国際課への出向時 (国際機関専門官) には、石井羊次郎さん、稲場雅紀さんとの協働のもと、G8 北海道洞爺湖サミットの保健案件確定に従事。その後、JICA 中国プロジェクト (予防接種) で長期専門家を経験。2014 年より現職。現在の研究テーマは、日本の乳幼児死亡率指標改善の寄与要因の研究、麻疹流行対策の研究、大規模災害時の保健医療機能維持に関する研究等。



石井羊次郎 (いしいようじろう) JICA ミャンマー保健システム強化プロジェクト チーフアドバイザー

日本獣医畜産大獣医学科卒。同年配属された JICA 医療協力部で保健医療分野の国際協力の多様性と深さに感動し、豪ジェームズ・クック大学熱帯獣医学研究所に長期研修。帰国後、バングラデシュ事務所で心疾患対策、母子保健プロジェクトに携わる。その後医療協力部で、プライマリー・ヘルスケア事業の拡大を目指したアフリカ保健事業の総括、保健医療事業の総括、保健医療事業の国際協力専門員として MDGs の元となるグローバルアジェンダづくりの国際会合要員に。2000 年パキスタン事務所に転勤し、事業統括、ポリオ根絶、母子保健、医療情報システム、結核対策、保健系協力隊員の活動支援に尽力。2003 年に帰国後、人間開発部で保健事業総括、2008 年の洞爺湖サミットに向けた UHC の日本の戦略策定に参画。2014 年 12 月に退職し、同月から JICA 保健システム強化プロジェクトのチーフアドバイザーとして、ミャンマーに派遣、現在に至る。